



2010年11月24日
FUJI SPRINT CUP 実行委員会

JAF Grand Prix SUPER GT & Formula NIPPON FUJI SPRINT CUP 2010

インフォメーション VOL. 18

3日間盛大に開催！「来年もお会いしましょう！」で閉幕

11月12日(金)～14日(日)の3日間、富士スピードウェイで国内2トップカテゴリーレースを史上初めて同日開催した“JAF Grand Prix SUPER GT & Formula NIPPON FUJI SPRINT CUP 2010”では、合計65,500人*の観衆を集め、晩秋の空の下、白熱したレースが展開されるとともに、シリーズ戦にはない各種イベントを実施し盛り上がりを見せました。

*11日予選:9,500人、12日決勝 :23,000人、13日決勝 :33,000人

各種レースの結果

1. Formula NIPPON

ストレートエンドでの最高速度でグリッドを決定した決勝 は、ポールポジションを獲得したK・コッツォリーノ選手がスタートで出遅れ、その後2番グリッドのA・ロッター選手がトップを独走し、2位を守った大嶋和也選手とのPETRONAS TEAM TOM S ワンツーフィニッシュを果たしました。

また、ラップタイムでグリッドを決定した決勝 では、ポールポジションのA・ロッター選手が前日と同様にトップを快走し、連勝を達成しました。

この結果、A・ロッター選手は総合優勝を飾りました。



Formula NIPPON 決勝 スタート



決勝 でワンツーフィニッシュを飾った PETRONAS TEAM TOM S

決勝 上位3位

Pos	No	Driver	東西	Entrant	Time/Gap	予選順位
1	36	A・ロッター	西	PETRONAS TEAM TOM S	31 48.539	2位
2	37	大嶋和也	東	PETRONAS TEAM TOM S	9.591	3位
3	10	塚越広大	東	HFDP RACING	13.631	4位

決勝 上位3位

Pos	No	Driver	東西	Entrant	Time/Gap	予選順位
1	36	A・ロッター	西	PETRONAS TEAM TOM S	31 39.941	1位
2	31	山本尚貴	東	NAKAJIMA RACING	6.989	6位
3	16	井出有治	東	MOTUL TEAM 無限	22.299	8位

2. SUPER GT 300クラス

本大会のSUPER GTでは各ドライバーが決勝 または にエントリーし、各々20分間の予選のラップタイムで各決勝グリッドを決定し、決勝はスタンディングスタートを採用しました。

決勝 は、ポールポジションの**高木真一選手**(ARTA Garaiya)が序盤で後退。その後、ストレートスピードを活かした**平中克幸選手**(JIMGAINER DIXCEL DUNLOP F430)と**吉本大樹選手**(triple a Vantage GT2)がトップ争いを演じた末、**平中克幸選手**が勝利を収めました。

また決勝 では、ポールポジションの**新田守男選手**(ARTA Garaiya)と2番グリッドの**黒澤治樹選手**(マッハ GOGOGO 車検 408R)がジャンプスタートによるペナルティで後退。その後、**柳田真孝選手**と**横溝直輝選手**が駆るフェアレディZ同士の壮絶なバトルが繰り広げられましたが、終盤に**田中哲也選手**(JIMGAINER DIXCEL DUNLOP F430)がトップを奪い、そのままトップチェッカーを受けました。

JIMGAINER DIXCEL DUNLOP F430 は2日連続の勝利を飾り**総合優勝**にも輝きました。



SUPER GT300 決勝 スタート



GT300 総合優勝の JIMGAINER DIXCEL DUNLOP F430

決勝 上位3位

Pos	No	Driver	東西	Machine	Time/Gap	予選順位
1	11	平中克幸	東	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP F430	38 43.658	3位
2	74	国本雄資	東	COROLLA Axio apr GT	3.031	2位
3	33	藤井誠暢	西	HANKOOK PORSCHE	10.416	15位

決勝 上位3位

Pos	No	Driver	東西	Machine	Time/Gap	予選順位
1	11	田中哲也	西	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP F430	38 43.000	4位
2	3	柳田真孝	東	TOMICA Z	1.558	7位
3	46	横溝直輝	東	アップスタート MOLA Z	1.993	6位

3. SUPER GT 500クラス

決勝 では、ポールポジションの**R・ライオン選手**(ZENT CERUMO SC430)がそのままトップを死守し、見事ポルトゥウィン飾りました。

決勝 では、ポールポジションの**松田次生選手**(カソニック IMPUL GT-R)がスタートで出遅れ、2番グリッドの**伊藤大輔選手**(ENEOS SC430)がレースをリード。終盤に**大嶋和也選手**(MJ KRAFT SC430)と**小暮卓史選手**(ウダ-HSV-010)がトップ争いに加わりませんが、伊藤選手が逃げ切り優勝を果たしました。ENEOS SC430(B・ビルドハイム・伊藤大輔組)は**総合優勝**に輝き、LEXUS TEAM LeMans ENEOS チームは**国土交通大臣賞**を受賞しました。



SUPER GT500 決勝 スタート



GT500 総合優勝の ENEOS SC430

決勝 上位3位

Pos	No	Driver	東西	Machine	Time/Gap	予選順位
1	38	R・ライアン	東	ZENT CERUMO SC430	35 31.508	1位
2	17	塚越広大	東	KEIHIN HSV-010	4.893	9位
3	12	R・クインタレッリ	東	カルソニック IMPUL GT-R	7.221	3位

決勝 上位3位

Pos	No	Driver	東西	Machine	Time/Gap	予選順位
1	6	伊藤大輔	西	ENEOS SC430	35 41.146	2位
2	35	大嶋和也	東	MJ KRAFT SC430	0.837	3位
3	18	小暮卓史	東	ウイダ - HSV-010	1.451	12位

4. ENEOS SUSTINA LEGEND CUP

大会前から話題を集めた往年のトップドライバーによる**レジェンドカップ**では、多くのドライバーが現役当時のレーシングスーツで身を包み懐かしい情景を披露する一方、現役時代さながらの熱いバトルを繰り広げ、観客を魅了しました。

決勝は、高齢のドライバーは年齢から50を引いた秒数を予選タイムからマイナスするハンディ制の導入により、ポールポジションは最年長の**高橋国光選手**でしたが、予選トップタイムの**影山正彦選手**が12番手から猛追し、今回出場を見送った**星野一義氏**が振るトップチェッカーを受けました。

また決勝結果のリバースグリッドで行われた決勝では、2番グリッドの**館信秀選手**がジャンプスタートを喫し、**星野一義氏**がペナルティーボードを提示すると会場は笑いの渦に包まれました。

観客席に笑いが溢れる一方でレースはこの日も熱いバトルが展開され、日本でも輝かしい実績を数多く残した**ジェフ・リース選手**がトップチェッカーを受け、レースファンを喜ばせました。



レジェンドカップドライバー集合



レジェンドカップ決勝 スタート



チェッカーを振る星野一義氏

4. サポートレース

各種サポートレースも大観衆が見守る中、熱いバトルが展開され、トップカテゴリーとは違う魅力を堪能していました。(レース結果は省略)



Netz Cup Vitz Race 2010 Grand Final



国土交通大臣杯 F4レース・コンストラクターズ 日本一決定戦



マイナーツーリングカーレース



各種イベントについて

1. ドライバーやレースクイーンとのふれあいイベント

1) パドックフリー、サンクスウォーク 【11/12(金)予選日】

11月12日(金)予選日は、パドックエリアへ入場できる“パドックフリー”としたため、お客様はチームハウスやピット裏での作業を見学したり、ドライバーやレースクイーンと談笑したり、ピットビルからの予選観戦など、楽しいひと時を過ごしていました。

また予選終了後にはピットロードで“サンクスウォーク”を実施し、多くのお客様がドライバーや監督、レースクイーンにサインをもらったり、記念写真を撮影して楽しんでいました。



サンクスウォーク



サインをする松田次生選手

2) スカイウォーク 【11/13(土)決勝 / 14(日)決勝 午前中】

決勝両日午前中のピットビル3Fで、SUPER GT、Formula NIPPON、レジェンドカップのドライバーやレースクイーンが参加してファンとのふれあいを楽しめる“スカイウォーク”を実施しました。

4回に分けて開催した本イベントでは、憧れのドライバーにサインをもらったり、レースクイーンが横一列に集合して撮影会を実施したり、多くのファンが朝から駆けつけ賑わいを見せました。



スカイウォークで星野一樹選手と柳田真孝選手



レースクイーン撮影会

2. 各種セレモニー

1) 参戦車両がグリーティングパレード 【11/13(土)決勝 11:00~11:30】

Formula NIPPONの決勝前に、サポートレースを含む参戦車両がコースをゆっくり走行しながらお客様に挨拶するグリーティングパレードを実施しました。

パレード後、主催者を代表して日本レースプロモーション(JRP)白井裕社長が、来賓を代表して田代信幸小山町副町長がそれぞれ挨拶した後、関西系ロックバンド「アースシェイカー」のヴォーカル 西田“MARCY”昌史氏による国歌独唱が行われました。

なお、この日は来賓として静岡県文化・観光部の渡井務観光局長にもご列席いただきました。

その後、参戦車両が並ぶホームストレートで“オールグリットウォーク”を実施し、レース直前の緊迫した雰囲気を堪能する多くのファンで賑わいました。



国歌独唱する西田“MARCY”昌史氏



オールグリッドウォーク

2) 表彰&フィナーレ 【11/13(土)決勝 16:00~16:45】

第1決勝レース終了後、SUPER GTとFormula NIPPONの表彰式をストレート上にレッドカーペットを敷き、盛大に行いました。

各カテゴリー上位3位のドライバーには、本大会のロゴでデザインした金銀銅のメダルと賞金を授与された後“東西対向戦”の中間発表も行われ、最後に、全ドライバーがコース上からお客様に挨拶し決勝を締めくくりました。



Formula NIPPON 決勝 表彰



SUPER GT 300 決勝 表彰



SUPER GT 500 決勝 表彰

3) ドライバーやレースクイーンがグリーティングパレード 【11/14(日)決勝 11:50~12:20】

Formula NIPPONの決勝前に、陸上自衛隊富士学校音楽隊の先導で今回参戦する全チームのドライバーや監督、レースクイーン、メカニックがメインスタンドの観客に手を振りながらコースを行進して入場するグリーティングパレードを実施しました。

関係者がコース上で整列後、主催者を代表してGTアソシエーション(GTA)坂東正明代表、来賓を代表して日本自動車連盟(JAF)田中節夫会長と静岡県岩瀬洋一郎副知事がそれぞれ挨拶した後、東西両軍のリーダーである本山哲選手と脇阪寿一選手による選手宣誓、陸上自衛隊富士学校音楽隊による国歌演奏が行われました。

なお、この日は来賓として上記のほか、静岡県議会の込山正秀議員、池谷晴一議員、高橋宏小山町町長、若林洋平御殿場市市長、増田吉信裾野市企画部長、山本洋陸上自衛隊富士学校長にご列席いただきました。

Formula NIPPON決勝直前には、航空自衛隊「飛行開発実験団」(岐阜基地)所属の戦闘機「F 2B」と「F 4EJ改」の2機が会场上空に飛来してデモフライトを披露し、空からエールを送りました。



陸上自衛隊富士学校音楽隊



参加チームによるグリーティングパレード(最終コーナー側より)



参加チームによるグリディングパレード(第1コーナー側より)



参加チームが一斉に整列



14日の来賓の方々



東西両軍リーダー(本山選手・脇坂選手)による選手宣誓



会场上空に飛来したF2(左)とF4(右) 戦闘機



F2が急旋回飛行を披露

4) 表彰&グランドフィナーレ 【11/14(日)決勝 16:00~16:50】

今大会の最後を締めくくる**グランドフィナーレ**では、レーザー光線による演出の中、まずFormula NIPPONとSUPER GTの各決勝の表彰を行いました。

続いて、東軍リーダーの**本山哲選手**(GT500)、**新田守男選手**(GT300)、**小暮卓史選手**(Formula NIPPON)、西軍リーダーの**脇坂寿一選手**(GT500)、**谷口信輝選手**(GT300)、**松田次生選手**(Formula NIPPON)の6名が登壇し、東西戦の結果発表を行いました。各レースのポイント、応援グッズと東西グルメ対抗ポイントを集計した結果、東軍**658ポイント**、西軍が**586ポイント**で東軍が勝利を収めました。

東軍を応援したファン(リストバンド購入者)には、大会ロゴを配した金メダルバッジと抽選で来シーズンのレース観戦券がプレゼントされました。

引き続き、レジェンドカップの表彰を行った後、Formula NIPPONとSUPER GTの総合表彰を行い、各総合優勝者には日本自動車連盟より**JAFグランプリトロフィー**が、各2~3位に**JAF盾**が授与されました。

また、SUPER GT 500クラスの総合優勝チームとF4の最多優勝コンストラクターには、国土交通大臣賞が国土交通省中部運輸局自動車技術安全部の**今田滋彦部長**より授与されました。

グランドフィナーレの最後に、主催者を代表して**富士スピードウェイ加藤裕明社長**が「来年も開催いたしますので、またお会いしましょう」と挨拶。参戦ドライバー全員が登壇し、**山本尚貴選手**の音頭で「WE LOVE MOTORSPORTS!!」の大合唱で幕を閉じました。



Formula NIPPON 決勝 表彰



SUPER GT 300 決勝 表彰



SUPER GT 500 決勝 表彰



Formula NIPPON 総合表彰



SUPER GT 300 総合表彰



SUPER GT 500 総合表彰



東西対抗戦結果発表



レジェンドカップ 総合表彰



国土交通大臣賞表彰



富士スピードウェイ加藤社長が「来年もお会いしましょう！」と挨拶



レーザー光線による演出



山本尚貴選手の音頭で、「WE LOVE MOTOR SPORT!」を大合唱

3. その他(イベント広場等)



イベント広場風景



トークショーに臨む J.P.デ・オリベイラ選手と平手晃平選手



過去の JAF グランプリ優勝車両を含む往年の車両展示



陸上自衛隊富士学校所属の特殊車両展示



パトナスのレーシングスーツ姿のキッズたち



イベント広場には各種 PR ブースも多く展示



シンハビールの風船で記念撮影するキッズたち



土曜日に場内宿泊するグループ

以上

【本プレスリリースに関するお問い合わせ】

GTアソシエーション(GTA)黒田 03-6426-2501 日本レースプロモーション(JRP)石原 03-3237-0131 富士スピードウェイ徳山 03-3556-8511

